

2020

# 女性専用車両の室内空間

Woman-only Train Car

AD29 鈴木 洋平  
指導教員 比留間 真

## 1. 研究目的

女性専用車は平成12年頃から導入が開始され、現在は広く定着している。鉄道会社がサービスとして始めた専用車だが、実状は先頭車であったり車両が割り振られているだけで、使い手の女性に対しての配慮は必ずしも十分とはいえない。そこで女性への配慮を重視し、一步先の女性専用車にふさわしい室内空間を持った車両について考えてみた。

## 2. 調査と分析

現在の女性専用車のほとんどは一般車両がそのまま使用されているため、女性への配慮がされていない。女性には高い吊皮や手すり、座席などが見られ、万人が乗れる設計がされている車両は女性のみを使用するのに向いていない。しかし女性専用車は終日設定されている訳ではなく、ラッシュ時以外には男性客も利用することから完全な女性専用設計という訳にはいかない。また、女性専用車を利用したいが、場所が遠いことや香水のにおいが臭いと言った理由から女性専用車にいいイメージが無い人も多く、利用したがる女性も少なくないのが現状で、女性への配慮がもうすこし必要である。

## 3. コンセプトの立案

「女性が快く通勤できる移動空間を作る」

<ゾーンニング>

<室内演出・色彩>

<寸法設計>

## 4. デザイン展開

デザインコンセプトの異なる3種類案の中からユーザー調査とデザイン展開・発展性を重視しデザイン展開を行った。

<ゾーンニング>

仕切り板など車内における造形モチーフを、柔らかさや尖った所のないやさしい室内空間を目指し『円・まる』にした。空間を区切ることで乗車時間の長い人も短い人も、ゆったり乗車してもらえるようにした。

<室内演出・色彩>

室内色は『女性らしさ』を引き出すため「優し

さ・清楚」の白を基調に、「温かさを感じる色・エネルギーを呼び起こす色」のオレンジ色をパステルトーンで座席と乗車口部分に配置した。空間をあえて仕切るように配置したことで乗車口の場所が認識しやすくなる他、明るい座席部に乗客を誘導し乗車口付近の混雑を低減させる狙いがある。照明と空調機は間接設計とした。前者は高級間を演出し上品な移動空間の演出に役立ちながら、十分な明るさを確保する。後者はクーラーの風が直接当たるのを嫌う女性客が多いために換気口を隠し、臭い対策に空気清浄機能をつける。乗車口上部にあるLCDは車内の造形コンセプトの「円」の流れを遮らないように宙づり式にした。

<寸法設計>

頭上空間の吊革を女性用に新たに設置した。吊革の長さを3種類用意し、現行の1610mmから一番低いところで60mm下げ、1550mm, 1600mm, 1650mmの長さの吊革を波打つようにぶら下げる。また室内上部をすっきり見せるため、網棚を廃止した。

## 5. 完成図



## 6. 結論

現実離れさせたアイデアに現実味を持たせた結果、変化したところがわかる人から見ればわかる程度のデザイン変更という結果になってしまった事が非常に残念だと思う。また色の塗り分けも「白は微妙」という意見や、「やっぱり荷物棚が無いのは…」という今ある物がなくなったことに不便を感じる声もあった。変更点を説明すると好印象な反応もあったので、実物大で体感してもらってから初めて本当の意見が聴こえると感じた。

## 7. 参考文献

「京王電鉄・女性専用車のご案内」

[http://www.keio.co.jp/train/other/women\\_only\\_car/index.html](http://www.keio.co.jp/train/other/women_only_car/index.html)ほか